

PORT OF THE YEAR 2020

情報誌「港湾」の読者が選ぶ ポート・オブ・ザ・イヤー 2020に 佐渡島の港 [新潟県] が決定！

(公社)日本港湾協会では、みなとに関する優れた実績や活動により、わが国の港湾・臨海部の活性化に寄与し、「みなとの元気」を高めた港湾をポート・オブ・ザ・イヤーとして表彰することとしております。

「港湾」の読者の方々から投票をいただき、その投票数と推薦理由から、ポート・オブ・ザ・イヤー 2020に佐渡島の港を選定いたしました。

ポート・オブ・ザ・イヤー 2020 佐渡島の港

■「みなとの元気」を高めた理由

佐渡島は、日本海の沖合約40kmに位置し、面積856km²、海岸線280km、人口約5万3千人、日本海側最大の離島です。

佐渡は沖合の海流の影響から、本土に比べ温暖で降雪量も少なく、島内には寒暖両系の様々な植物が自生しており、海産物をはじめ、米や果樹などの多種多様な農産物など食材にも恵まれています。

この佐渡島には、重要港湾の両津港と小木港、地方港湾の赤泊港、避難港の二見港、そして佐渡の金山の栄華を支えた大間港があり、古くから物流・人流・文化交流の拠点として繁栄してきました。近年は、島民の生活物資や産業物資の物流はもとより、佐渡金山をはじめとする多くの観光資源を背景に観光客やクルーズ船で訪れる訪日外国人の受け入れ拠点としての役割を果たしています。

また、港を核とした地域活性化の取り組みも盛んで、みなとオアシス佐渡両津では、恒例の四季を通じたSea級グルメ佐渡大会の開催や全国大会への参加が実を結び、昨

年度には、『第12回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in佐渡』が開催され、会場である両津港が過去に類を見ない約1万5千人の来場者で埋め尽くされ賑わいました。

小木港においては、「宿根木・鼓童」など近隣に多くの観光資源があることからクルーズ船の寄港が定着し昨年は寄港数が10回に達しました。また、小木港周辺を舞台に国際芸術祭が毎年開催されて、国内外から約3万人が訪れており、国際的な交流拠点となっています。

現在、佐渡島は、令和5年度の世界文化遺産への登録を目指しており、島民一体となって環境美化に取り組み、世界遺産にふさわしい島佐渡のイメージアップを図っているところです。

国、県、地域住民の皆様のご支援ご協力を得て、港の賑わい創出の活動に取り組み、「みなとの賑わい」を「佐渡島全体の賑わい・地域振興」へとつなげ、時を節目に「佐渡島の港」が大きく飛躍することを祈念しています。

皆さん、『佐渡に来いっちゃ〜!』



- 1 両津港
「第12回みなとオアシスSea級グルメ全国大会in佐渡」
- 2 小木港(クルーズ船寄港)
- 3 大間港(H27土木遺産に認定)
- 4 二見港
(クルーズ船・紙テープでのお見送り)
- 5 赤泊港(海上相撲)

「ポート・オブ・ザ・イヤー 2020」に選ばれた佐渡島港に対しては、令和3年1月20日(水)の表彰式において賞状及び楯を授与いたします。また、「港湾」3月号に同港の「みなとの元気」紹介記事を掲載します。